

宮城県最大のダムを有する水源の町として これからもこの大切な水源を守り

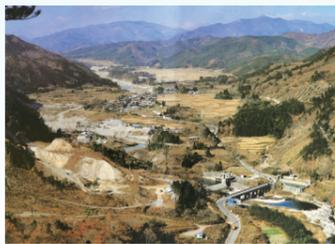
水源の町で暮らすことを 誇りに思います。

ダムの建設に協力してくれた方々

現在七ヶ宿ダムのある場所には、ダム建設前に追見〔おっけん〕・原〔はら〕・渡瀬〔わたらせ〕という3つの集落があり、600人あまりの人々が暮らしていましたが、ダムの建設に伴い、昭和55年調印式以降158戸637人の町民が故郷を離れることとなりました。その後、移転先として開発された団地は、3地区の名前を元に瀬見原地区となり、故郷を想う曲「瀬見原慕情」が残されています。



▲旧集落の位置



▲集落全景

ダムの役割

洪水調整

台風や大雨時に下流に流れる水量を調整し、洪水被害の低減を図っています。

かんがい用水

白石川流域沿岸などの農地にかんがい用水を供給しています。

水道用水

1日最大595,900㎡（25mプール1,100杯分）を仙台市や県南地域に供給しています。

流水の正常な機能確保

川の水量を一定に保ち、川の環境や周辺の生態系を保全しています。



▲開通式の様子

ダムサイト下流約3kmの大熊地先から上流の横川地先までの延長9890mで、工事は昭和56年3月の西材木岩トンネルの着工から、延べ9年8か月を費やして完成しました。



▲竣工式

計画から完成まで、約18年間を費やした七ヶ宿ダムの完成を祝い、竣工式が開催されました。

竣工式 10/22

工事着工

定礎式(S60)

国道113号付替道路
全線開通

1966年
昭和41年

予備調査開始

昭和41年から予備調査が始まり、昭和48年まで実地計画調査が行われました。

1980年
昭和55年

1981年
昭和56年

七ヶ宿ダム建設に伴う
一般補償協定調印式

昭和54年に補償基準が提示されましたが、双方の折り合いがつかず、1年後ようやく署名捺印されました。



▲調印式

1990年
平成2年

1991年
平成3年

七ヶ宿ダム自然休養公園開園

現在では道の駅や水と歴史の館が併設された自然公園で、グラウンドゴルフ場やパークゴルフ場もあり、春の桜、秋の紅葉が人気です。桜は公園開園時に寄付をいただき植樹したものです。



▲ダム公園桜



▲現在の七ヶ宿ダム

当時の集落写真



今年の10月で七ヶ宿ダムが竣工から30年を迎えました。七ヶ宿ダムは、宮城県内8市9町約193万人の水がめとして重要な役割を果たしています。これまでのあゆみを振り返ります。

「七ヶ宿ダム」のあゆみ

県民193万人の水がめ